



第2地域 ポリオ根絶コーディネーター 柳生 好春（野々市 RC）

7月17日に国際ロータリーが加盟するGPEIのポリオ監視委員会で野生型ポリオ根絶を証明する期限が2027年に延長、変異型ポリオウィルスについては2029年に延長された。今年度は残念ながら野生型ポリオの発症数は前年度の同時期を上回っている。ロータリーは1985年から粘り強くポリオ根絶に向けて取り組んできたが、ここに来て会員の一部に厭戦気分にも似た感情があることを見聞きする。

ロータリーの4つの「ボイス」の1つに「粘り強さ」が掲げられていることをご存知だろうか。「ポリオ根絶」はロータリーが国際社会に約束した最重要テーマであり、ここで投げ出すわけにはいかない。また「約束を守る」は中核的価値観の1つ「高潔性」としてしばしば引用される。



これまでロータリーはポリオ根絶に25億米ドル以上を投入し、122か国、約30億人の子供に予防接種を行うため多大な時間をかけてきた。この実績が評価されWHOやUNICEFから高い評価を得、根絶の暁にはノーベル平和賞の受賞も取り沙汰されている。

6月にパレスチナのガサ地区で循環型変異型2型ポリオウィルスが下水サンプルから確認された。8月にワクチン接種歴のない乳幼児に感染が確認され、9月に入りハマスとイスラエルの間でポリオワクチン投与のための期間限定の停戦が実現した。大きくテレビなどのマスメディアで取り上げられ、日本人医師清田明宏氏の活躍をそこで知った。WHOに15年務め、現在はヨルダンのアンマンに本部を置く国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)の保険局長として精力的に活動している。氏は「ガザの不条理に目を背けるな」のメッセージを発信する。ロータリー活動の究極の目的が世界平和にあり刮目せざるを得ない。「ポリオの根絶」はその一里塚である。

EPNCの役割について考えてみた。ポリオ根絶に向けたファンドレイジングと理解の増進にあることは明白である。しかしこれを効果的に行うには「人間は事実や数値や方程式ではなく物語の形で物事を考える」(イスラエルの歴史家ユバル・ノア・ハラリ)が箴言である。

※GPEI 世界ポリオ根絶推進活動